

令和5年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

課題分野名	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要	令和5(2023)事業計画	令和5(2023)年度実績	自己評価		外部評価	
							評定値	コメント	評定値	コメント
教育 改革 プロジェクト	①QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(期間中に5科目以上) ② 共同FD・SD(短大系含む)の実施(期間中に15回以上) ③ 共同研究の実施(期間中に10件以上) ④ 共同IRIによる共通調査等の実施(期間中に5件以上) ⑤ 高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(期間中に5件以上) ⑥ 地元就職支援に係る地元企業との連携事業(期間中に5件以上) ⑦ リカレント教育の講座等の実施(期間中に10件以上)	A・QSP科目群創出WG(国際大)	A-1	・教材開発、教材データベース	・第1期QSPIにおいて構築した教材データベースを発展させ、これからの時代に求められるデジタル人材の育成に資する情報教育や、地方創生に貢献する上で基盤となる地域の学びに関する内容につながる教材の開発と教材データベースの構築を行い、それらが参画校の授業の中で活用される仕組みづくりを目指す。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校間で協議・検討する。	デジタル社会の進展で、デジタル人材育成は、その重要性は一段と増している。また、データ活用が一層重視される中、文理を問わず情報教育が行われることが求められる。データサイエンスやプログラミングなどに苦手意識を持つ学生も学びに活用することのできる教材の作成について、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進めている。	B	デジタル人材育成に資する教材開発の仕組みづくりについて一定の進捗は見られたものの、教材の開発そのものもしくはデータベースの構築そのものは未着手である。また他のWGとの協働に関しても参画校との検討にとどまっている。		
			A-2	・単位互換	・各参画校で相互協力・単位互換が求められる授業科目について、ニーズを把握する。また参画校に在籍する学生の多様な学びに対する希望を実現することができるよう、既に佐賀、長崎で構築されている単位互換制度との連携も図りつつ、特に教養教育の分野において各参画校のもつ教育の強み・シーズを拡大活用するためのネットワークを整備し、それらをQSP全体で共有することで、教育の質向上につながる単位互換制度を目指す。 ・「西九州探究」に関連する科目を、各参画校が提供し、相互に利用できるような共通科目群として整備することについて協議・検討する。	各校の学生が学びやすい環境を整えるため、また多様な学びができるような科目構成が構築できるプラットフォームとしての基本的な制度設立に向けた準備に着手しており、本取組の課題等の検討、論点整理を踏まえ、参画校での協議を進めている。	B	取組の課題等の検討、論点整理を踏まえた参画校間の協議を進めている段階であり、単位互換性の構築そのものや新科目の創出については未着手である。		
			A-3	・西九州探究(長崎学、佐賀学)	・QSP参画校が所在する九州西部地域における地域の魅力発見を発見したり、地域の課題を知ってその解決に寄与し得る人材の育成のため、多様な分野の横断的学修ができるような授業科目群の創出を目指す。 ・また地域課題を探究するため、地方公共団体や産業界と連携した参画校協働の研究活動の実施を目指し、他WGとも連携した取り組みができる体制を整備する。	A-2「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関する学びができる授業科目の設置に向けた検討がまだ不十分であるため、参画校と議論を進めている。	B	西九州探究(長崎学、佐賀学)に関する授業科目が各大学において独自に開設しているものの、「単位互換」提供科目として設置するには至っておらず、参画校間で協議を重ねている段階である。		
			A-4	・人材バンク、共同FDSD、人事交流	・第1期QSPIにおいて構築した人材バンクで参画校の教職員を登録し、地域の教育活動、地域活動の活性化のための人材派遣など支援を行ってきた実績を踏まえ、地域からの多様なニーズに応えるため、ニーズオリエンテッドな人材バンクの活用拡大を目指し、他のWGとの連携・協働を行う。 ・プラットフォーム事業の趣旨を徹底し、QSP参画校の教職員協働での事業推進を図るための共同FD・SDを計画的に実施する。 ・QSP参画校間および組織間での教職員の人事交流(非常勤講師の派遣を含む)を活発に行っていく。	[人材バンク] QSP人材バンクを活用した人材派遣として、各種の研修会、講習会、公開講座等へ25件(12月末時点)の実績である。本年度、人材データベースを「教育改革プロジェクト」、「SDGs推進プロジェクト」、「国際交流プロジェクト」の3分野に整理し、登録教職員数は84名で公開を行った。 [共同SDFD] ① R5.9.6(水)「自己点検評価を通じた教職課程の質保証：長崎国際大学における自己点検評価報告書の作成プロセスと今後の課題(オンライン開催) 主催：長崎国際大学 ② R5.9.19(火)「数理・データサイエンス・AI」DXによる大学教育の質的転換(オンライン開催) 主催：長崎総合科学大学、長崎国際大学 ③ R5.9.21(木)「産学官連携による共同研究の進め方(オンライン開催) 主催：西九州大学・短期大学 ④ R5.12.7(木)「デジタル人材育成への一歩(オンライン開催) 主催：西九州大学・短期大学	A	人材バンクや共同SDFDについては、ほぼ所期の目標を達成することができているが、さらなる充実及び登録教員数の増加を目指す必要がある。		
			A-5	・共同IR	プラットフォーム事業を推進するに当たり、参画校の教学に関する情報を集約、分析し、各WGが事業計画作成等に活用するための基礎資料作りを行うとともに、活動中に得られた情報を共有・公開する。	これまで継続して、QSP連携校での共同IR調査を実施し情報公開を行ってきた。R3(2021)年度、共同IR調査を実施し、IR資料のデータを全連携校より提供を受け、情報を集約整理し、更新したデータをQSP公式サイト上にて情報公開を行った。今年度は、第2期QSPがスタートし、連携校の学長による評価、分析コメントの取りまとめを行い、QSPとしての強みと課題の共有、それらに対する取り組みを進めている。	A	共同IRIについてはプラットフォーム事業推進に必要な各WGの基礎資料作りや、情報の共有・公開などについて、ほぼ所期の目標を達成することができた。今後さらなる情報の収集・精査と、プラットフォーム事業推進に必要なあたりで統合された情報共有の仕組みづくりが必要である。		
		B・人材育成(鎮西)・高大連携WG	B-1	・「地域創生支援リーダー育成入試」	QSP構成大学・短期大学が参画できる事業へと見直しを図る。	令和5年度応募7名、合格1名、入学ゼロ。令和6年度合格6名、入学者発生見込み。令和6年度募集のため3校共同パンフレットの作成、学校訪問を実施。長崎国際大学では、学内共同入試奨学生規程の見直しなどを行った。	A	制度導入後、初の入学者(見込)を獲得できた。		
		B-2	・合同グループ面接講座	WGのもと、以下のプロジェクトチームを編成し、事業の見直し・継続の是非を検討。必要に応じWG全体会議を年3回程度、各PTを4回程度実施。進捗管理・自己評価を行う。	前回はR4.12.3実施、次回R6.9実施予定	C	令和5年度検討のみ、実施なし			
		B-3	・合同企業説明会	・域内進学促進PT:構成大学・短大の入試募集担当者で編成。「地方創生支援リーダー育成入試」の継続を含め、共同入試制度の運営、学生募集活動、高大連携事業について検討 ・地方創成人材育成PT:構成大学・短大の就職・キャリア支援担当者、自治体、産業界で編成。就職試験対策講座、合同企業説明会等の企画運営。	R5.9.22 長崎空港ビルディング観見学会を実施。6大学から18名の参加があった。	A	合同で大手地元企業見学会を実施し、地元就職意欲の向上を図ることができた。			
		B-4	・リケジョ事業	・リケジョ事業PT:西九州大学、佐賀大学、佐世保高専、長崎国際大学により編成。「リケジョプロジェクト」を企画運営。女子中高生の理系進路選択支援プログラムの(JST採択事業)推進。	佐賀大学、西九州大学、長崎国際大学、佐世保高専4校合同の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」にて、実験体験会等企画、実施 R5.8.4(金)リケジョ集まれ!サマーサイエンス! R5.8.30(水)ようこそサイエンスの世界へ(香岐市石田中) R5.11.19(日)合同の実験体験会「リケフェス2023」 R5.12.23(土)海きららバックヤード見学ツアー	A	高大連携事業としての女子中高生の理系進路選択支援プログラムを多岐にわたって展開し、大きな成果を上げることができた。			
		C・リカレントWG(龍谷)	C-1	・リカレント	・各大学主催のリカレントに関する講座の取りまとめと広報活動 ・研究報告書の継続 ・子ども発達支援士養成卒業後・現職プログラム	・各大学主催のリカレントに関する講座の取りまとめと広報活動の実施 ・リカレント公開講座「スマホアプリ作成」の実施 ・社会人向けキャリア形成支援セルフ・キャリアアドック面談の実施	A	・各大学のリカレント講座の取りまとめはアナウンスしたが、思ったように集まらず、広報活動までつながらなかった。しかしスマホアプリ作成講座は、2校で開催し、約20名の参加があった。 ・セルフキャリアアドック面談実施を2社に了承を得て、すでに1社で実施。		
		C-2	・ICT教育	・実用ドローン関連講座	企画したが、集客出来ず実施不可。(実用ドローン講座)	B	集客出来ず結果的に実施不可となったものの、企画・募集活動は実施できている。 【リカレント公開講座】ドローン活用講座(予定企画) ・講師 Mononofujapan株式会社 代表取締役 志田信也氏 株式会社 代表取締役 荒木圭一氏 ・時期 令和5年4月または5月 ※令和5年3月15日に告知イベント実施 ・場所 鎮西学院大学体育館、及びオンライン ・対象 20代から40代社会人 ・内容 ドローンの操縦免許の取得と農業用ドローン免許取得と、ドローンの防災活用の学び。			
		C-3	・データサイエンス教育	加盟各校のデータサイエンス教育への取り組み状況の調査と「数理I・データサイエンス・AI教育」実施校としての認定を目指す。	第2回 QSP 共同 FD・SD 「数理・データサイエンス・AI」講演と各大学の取り組み状況について(長崎総合科学大学、活水女子大学、長崎外国語大学、鎮西学院大学、長崎国際大学、長崎短期大学)2023年9月19日現在、QSP参画校のうち6校は認定	B	リカレントWG自体の取り組みではないが、QSPとしてデータサイエンス教育に関する報告がQSP共同FD・SDでなされている。本WGとしても次年度は積極的に参画したい。			

令和5年度 事業実績報告及び自己評価

評価値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

課題分野名	中期計画				令和5(2023)事業計画	令和5(2023)年度実績	自己評価		外部評価	
	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
SDGs推進プロジェクト	⑧ 共同公開講座の実施(年5件以上) ⑨ 健康増進事業の実施(期間中に10件以上) ⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(期間中に5件以上) ⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(期間中に5件以上) ⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(期間中に10件以上) ⑬ 初中等教育関連教材の開発(期間中に4本以上) ⑭ 初中等教育関連支援活動の実施(期間中に10件以上)	D 短大系WG(佐女)	D-1	・キャリア教育(短大フェス)	職業・キャリア教育を中心とした教育内容についての調査研究 短大生の特徴に合わせた職業・キャリア教育プログラムの自己評価(課題の抽出等)/評価からの改善	短大フォーラム等を参考に、別の新たな形でキャリア教育を検討する。	C	今年度はまだ研究段階で、新たな形で実施できなかった。		
			D-2	・短大共同IR	在学生調査、卒業時調査、卒業生調査、就職先調査、高校調査等を実施し、IR活動の基盤となるデータを蓄積/共通IR活動の母体拡大を模索する(共通調査実施校の拡大に向けて動く)	R6.1-3:R5 在学生調査(短大WG)、前年度以前:卒業生調査(短大WG)	A	R6.1-3令和5年度在学生調査を実施し、及び以前の卒業生調査をもとに、蓄積データの分析を実施している。今後の短期大学の教育の質向上、学生生活環境の向上などに活かしていく。分析基礎データを蓄積できている。蓄積データを分析することを先決としたため、卒業生調査実施を延期した。分析するためのハード整備を進める予定。		
			D-3	・広報力・教育力の向上	FDSO研修、教職員の人事交流	短大系FDSOの実施 ・9/13「インクルーシブ教育」 ・9/29「短期大学のディプロマ・サプリメント」人事交流 ・西九州短期大学部(教員)⇒長崎短期大学	A	課題を共有し、FDSO研修や人事交流を実施している。		
	⑤ 共同公開講座の実施(年5件以上) ⑥ 健康増進事業の実施(期間中に10件以上) ⑦ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(期間中に5件以上) ⑧ 施設・設備の共同利用による取組の実施(期間中に10件以上) ⑨ 初中等教育関連教材の開発(期間中に4本以上) ⑩ 初中等教育関連支援活動の実施(期間中に10件以上)	E 健康・福祉推進WG(西九大)	E-1	・ウォーキングで健康イノベーション	「ウォーキングで健康イノベーション」事業概要、事業計画名のもと、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2023in佐賀」(仮称)の開催 ・佐賀市とのコラボによる「QSP健康ウォーク」(仮称)の開催	令和5年12月3日、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2023in佐賀」を開催し、史上最高の327名の一般の市民の参加者があった。	A	令和5年12月3日、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2023in佐賀」を開催し、5年間続くイベント史上最高の327名の一般の市民の参加者があり、佐賀県内の6つの高校からのボランティア参加も実現できた。市民の皆様はQSP健康ウォークが浸透し始めている状況と考えられ、今後はQSP事業への理解を深めて頂く施策が必要と考えられる。		
			E-2	・福祉教育フェスティバル	九州西部地区福祉教育推進事業 「2023 福祉教育フェスティバル」 ・2022年度の既存計画を連携事業として開催。事業推進のコアとなる組織の広域化を推進する。佐賀・長崎と運動した具体的また効率的な連携事業企画としてブラッシュアップする。	「2023 福祉教育フェスティバル」について 11月25日(土)13:00~17:00 鎮西学院大学西山ホールで開催 I部/ ○OPENING高校生企画『未来へ繋ごう福祉のバトン〜こんな未来だったらいいな』というテーマで、福祉を素材にした学習の成果や意見発表などの自由なプレゼンテーションやパフォーマンスを学校単位で動画を放映。 ○福祉体験成果発表 :長崎県立口加高等学校・福祉科1、2、3年「口加高校福祉科〜開科から5年目を迎えて〜」 :鎮西学院大学・しあわせ支援隊「発達障害者が抱える言語の壁」・スマイルプロジェクト「『らしさ』を見つめる〜ジェンダーを超えた自分らしさ〜」 II部/福祉教育セミナー ○授業実践報告(ICT機器、教材、指導法、他) 池田直人氏(長崎玉成高校)『高校生が福祉を学ぶ』、末永涼子氏(島原農業高校)『Aさんとの3年間の歩み』、金文華氏(鎮西学院大学)『大学における社会福祉士養成教育の動向』、菅達也氏(鎮西学院大学)『大学における特別支援・福祉教師養成教育〜教材教具活用の実践〜』 ○情報交換会(授業実践報告の振り返り、教材、実習指導、ICT機器の活用について、気になる生徒、他) 特に今年度は『未来へ繋ごう福祉のバトン〜こんな未来だったらいいな』をテーマに、次世代の地域福祉を担う若い世代が想い描く未来図と、そこに必要とされる支援のありようを考えるセミナーの内容であった。全体的には予定通り実施できた。ただし原則無観客だったので、受講者の時々の反応を確かめながら進行することが難しかった。	A	「2023 福祉教育フェスティバル」について ●コロナ・インフル蔓延を危惧し、録画形式で実施したが、小規模でも高校・大学教員との情報交換や研修の場になり、次年度開催の弾みになった。終了後、関係校や教育機関に録画DVDを配布する予定である。		
			F-1	・観光・まちづくり事業	地域の観光・まちづくりに関するコンテストやセミナーを開催する。修学旅行向けの研修素材を検討する。	「クルーズ寄港地プランコンテスト」企画・協議。24年度実施に向け、観光クルーズ船寄港地に係る企画、協議を産学官で実施。 11/21(火) 郵船クルーズ(株)・佐世保市港湾部、1/20(土) (株)ジャパネットトイズム	B	23年度旅行プランコンテストの復活開催はできなかったが、24年度開催を目指し、旅行関連地元企業、佐世保市との企画、協議を継続している。		
			F-2	・地場産業振興(窯業他)	波佐見地区の産業振興を支援する。地元企業・団体と連携して、課題解決型事業を展開する。	波佐見焼製陶工場と、生地工場の間を生地を運ぶための生地引きの効率化と省人力化のために、ドローンを用いた輸送を計画した。その実証実験を行った	S	具体的な課題解決事業を策定し、実証実験を行うことができた。		
			F-3	・創業支援	長崎市内大学ビジネスプランコンテストを開催する。長崎県ビジネスプランコンテストの予選も兼ねる。	8月11日に第5回学生ビジネスプランコンテストを開催した。3組のプランの応募、3社のスポンサーがあった。	A	計画通りに開催することができたが、参加者が昨年度よりあまり増えておらず改善の余地がある。		
			F-4	小中学生向け体験教室	ものづくりやプログラミングの体験教室を開催する。	8月11日に地元企業との共催で開催(体験者299人、参加者527人)した。応募段階では611人の体験希望であったが、抽選で体験者を絞らざるを得なかった。(別添報告書参照)	S	想定していた以上の体験希望者が集まり、関心の高さを改めて認識した。また、参加者の評価も高く、目標以上の成果があったと判断できる。		
G-1	・共同研究「幼児教育等家庭支援」	・共同研究「幼児教育・保育現場における家庭支援に関する研究」	令和5年度は、昨年度実施したアンケート調査を統計的な分析を行うため、データの修正を行った。また、新たな調査研究に向けて、地域の保育園に調査協力を依頼した。1月中にインタビュー調査、子どもの行動観察を行う予定である。昨年度のデータの分析結果と、1月に実施するインタビュー調査、行動観察の分析結果をもとに、事業報告書の発行を予定している。	A	データの修正や備品の購入に時間がかかり、事業報告書の作成やデータの分析に遅れが見られるが、概ね目標通りに実行することができている。今後は、調査研究から得られた知見を、学会発表や地域への還元(報告会)等の実施、保育現場や行政と分析結果を共有し、地域のニーズを明らかにする必要がある。					
G-2	・子ども発達支援士養成プログラム	・子ども発達支援士養成プログラム	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修)の実施。大学コンソーシアム佐賀を構成する(放送大学を除く)5つの連携校にて研修日程を調整して実施。	A	プログラムは5大学の研修を2年かけて受講するシステムとなっており、受講者は日程調整して可能な研修を受けるようになる。その為、受講できない研修もある。今年度については、ほぼ予定通り実施できたが、研修準備をしたものの受講希望者がいない連携校もあった。					
G-3	・子ども育成フォーラム	・第4回子ども育成フォーラムの開催 共同公開講座開催に向けた調査の実施。	子ども育成に関連する共同公開講座の実施に向け、オンライン会議にて参画校の調整依頼後、WG会議を開催。 ・過去3年間実施した子ども育成フォーラムの実績を踏まえ、子ども育成フォーラムの形態を見直し、参画校各校の強みを生かした新たな共同公開講座としてリレー講座を企画した。 ・また別途子ども育成WGの令和5年度事業として、R5/9/2「発達障害支援フォーラム(西九州大・西九州短大主催)」、R5/11/11「子どもフェスタ(九州龍谷短大主催)」、R6/2「子ども研究ネットワーク研究大会(西九州大、佐賀県主催)」を実施している。	A	・過去3年間実施した子ども育成フォーラムの見直し、リレー講座を企画した。 ・また別途子ども育成WGの令和5年度事業として、「発達障害支援フォーラム」など、子ども育成関連の催事を実施した。					

令和5年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

事業分野名	課題の数値目標	中期計画		令和5(2023)事業計画	令和5(2023)年度実績	自己評価		外部評価		
		WG名	No.			事業の概要	評定値	コメント	評定値	コメント
国際交流プロジェクト	⑯留学生支援事業の実施(期間中に5件以上) ⑰留学生交流事業の実施(期間中に5件以上)	H	留學生支援WG(外大)	H-1	<p>【留学生受入れ支援】</p> <p>A: 共同学生募集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同多言語パンフを作成しHPに掲載 ・海外共同学生募集活動の展開(現地日本語教育機関等) ・在学生・卒業生サポーターによる各大学等のPR発信(サポーターに報酬支弁) <p>B: 域内進学促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・域内進学時転居費用一部助成 	<p>1 計画書の精査(WG)</p> <p>2 実施案の検討(WG)</p> <p>3 試行的実施</p>	<p>A① 各大学等の留学生募集情報を集約し、HPに掲載した。 https://www1.niu.ac.jp/platform/1952.html</p> <p>A② 海外事業は未着手だが、国内での事業として鎮西学院大が主管となり9/14に福岡市(九州英数学館)で共同進学説明会を実施、QSP構成7大学等が参加し、約60名の外国人留學生に大学説明を実施した。</p> <p>B 域内進学促進支援についてはWG会議で検討したが、財源の確保に向けてまずはQSP事務局と折衝を行っていくこととした。</p> <p>また計画外事業として12/19に「研究マネジメント人材養成QSP合同SD兼第5回長崎県内大学等安全保障貿易管理勉強会」を長崎外国語大にて実施(標記勉強会の幹事校である長崎大との共同開催)。各大学の安全保障貿易管理担当者12名が参加し、留學生の受入れ時における法令上の遵守事項等について理解を深めた。</p>	A	<p>WG組成初年度であったが、事業計画に記載の通り当年度内に事業の試行実施まで漕ぎ付けられた点は一定程度評価できる。</p> <p>一方でBの事業実施に向けて本WG配分予算(年間30万円)のみで実施する場合、相応の費用対効果を確保できるスキームの構築が不可欠であり、今少し検討の時間を要するものと思料。これと同時に並行でQSP事務局との折衝も続けていきたい。</p>	
				H-2	<p>【日本語教育支援】</p> <p>A: 日本語教育ピアサポーターの育成(サポーター育成講座の実施とQSP大学等間横断的派遣制度構築、サポーターに報酬支弁)</p> <p>B: 日本語教育リソース共同開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該リソースの単位互換科目化 ・社会へのフィードバック(MOOC) 	<p>1 計画書の精査(WG)</p> <p>2 配分予算に係る協議(QSP)</p> <p>3 実施案の検討(WG)</p> <p>(4) 試行的実施</p>	<p>A WG会議での検討を経て、「長崎外国語大の日本語教員養成課程をコアとした留學生オンラインピアサポート」を柱とする方針を策定した。着手・試行実施は次年度以降となる。</p> <p>B 上記Aと同様にWG会議でQSP事業化できるような各大学等の既存サイズがないかの照会を行ったが、該当はなかった。</p>	B	<p>Aについては事業計画に記載の通り、実施に向けた方針策定が完了したが、Bについて中期計画期間内の事業化は現時点では困難かと思われる。これは、事業計画策定段階における幹事校の事前リサーチ不足によるものであるが、各大学等の日本語教員が日本語教員資格新制度への対応に追われている現状に鑑み、今後中期計画の一部変更も検討する必要があると考える(「MOOCの正課科目化」までは至らずとも留學生就職支援教材(正課外)の共有化等も併せて検討)</p>	
				H-3	<p>【国内キャリア形成支援】</p> <p>A: 佐賀県・長崎県内企業とQSP内留學生とのマッチング促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留學生スカウトイベント ・卒業生による企業PR発信(QSP外の大学等への展開も検討) <p>B: 佐賀県・長崎県内企業卒業生の定着促進支援(定着阻害要因の分析、課題解決のための共同講座等の実施)</p>	<p>1 本事業への行政・経済団体の参画に向けた合意形成</p> <p>2 計画書の精査(WG)</p> <p>3 実施案の検討(WG)</p> <p>(4) 試行的実施</p>	<p>A・BともにWG会議での実施案の検討を行ったが、方針策定にまでは至らず。次年度以降の継続検討となった。</p>	C	<p>事業計画に定めた「実施案確定」ができなかった。今後はQSP構成自治体・産業界等と連携しつつ域内企業等を巻き込んでいく必要性を感じており、次年度上半期までには検討を完了させたい。</p>	
				H-4	<p>【国外キャリア形成支援】</p> <p>A: QSP大学・短大の学修歴証明の国際通用性担保(デジタル証明発行システム導入と事務共同化)</p> <p>B: 母国内同窓会の組成(卒業後紐帯維持、佐賀県・長崎県の魅力発信の担い手、上記C-1「サポーター」への循環も)</p>	<p>1 計画書の精査(WG)</p> <p>2 配分予算に係る協議(QSP)</p> <p>3 Aのシステム化に向けた検討(WG)</p> <p>(4) 試行的導入と運用</p>	<p>A デジタル証明発行システムについてWG会議での検討を経て9/5及び9/28のQSP全体会議で検討を行った。当該両会議では「費用対効果を含めた総合的検討が必要」「産業界からの支援取り付けも含む財源確保策が必要」といった指摘があり、継続審議となった。</p> <p>B 海外同窓会組成については、WG会議において長崎外国語大上海教育事務所を拠点に同窓会イベント実施を企画する方針を決定したが、同窓会の組成を佐賀・長崎地域の魅力発信に如何に繋げていくかの方策の検討に時間を要している状況である。</p>	B	<p>デジタル証明発行システムについて各大学等の学長を交えた予備的検討がなされたことは数少ない成果であったが、全体会議での指摘にあった財源(年間150万円程度のランニングコスト)やの問題は解決の糸口を見出し難く、粘り強く検討を進めていく必要がある。</p> <p>Bの事業については次年度6月までにWG内での検討を完了させ、2024年度中の試行実施に向けた道筋を立てたい。</p>	
	I	留學生交流WG(西短大)	I-1	・ACC(アジアコミュニティカフェ)		<p>イベント名: アジア屋台村祭り(アジア・エスニック料理)</p> <p>実施日: 2023年12月9日</p> <p>場所: どんとどんの森(佐賀市天神3丁目2)</p> <p>参加大学: 西九州大学、西九州大学短期大学部、佐賀女子短期大学</p>	A	<p>「佐賀留學生市民感謝デー アジアエスニック料理屋台村まつり」として留學生と共に企画し地域住民に対し広報活動を行った。留學生の母国の料理の提供だけでなく、文化交流や民族ダンスの披露を行った。短時間のイベントだったが留學生と市民の交流が深まる機会となり、参加した学生のアンケート結果も概ね好評であった。</p>		
			I-2	・異文化理解教室	<p>1 本事業実施に向けた合意形成</p> <p>2 配分予算に係る協議</p> <p>3 企画書提出</p> <p>4 企画の実施</p> <p>5 報告書の提出</p> <p>6 次年度に向けた企画提案</p>	<p>イベント名: 異文化理解教室</p> <p>実施日: 6/7,12/6 佐賀商業高校 6/23,1/16三川内小、10/24,12/12広田小、11/16九文高、2/29うづぼ木小</p> <p>参加大学: 長崎国際大学、西九州大学、西九州大学短期大学部</p>	A	<p>地元小学校、高校と留學生の交流活動が定着している。各大学に在籍している留學生にとっては母国文化を紹介する機会となり、双方にとっての異文化理解の促進に繋がっている。</p>		
			I-3	・英語イメージデイキャンプ	<p>7 「QSP異文化理解教室: 小學生と留學生との交流」の継続実施(唐津市、佐世保市)</p>	<p>イベント名: 中學生英語イメージ講座</p> <p>実施日: 2024年2月13日</p> <p>参加大学: 長崎外国語大学、鎮西学院大学、長崎総合科学大学</p>	A	<p>事後アンケートを徴取した結果、ほぼ全ての参加生徒から「満足」との回答が得られており、所期の目的は十分に達せられたと考える。なお、本件実施の成果については今後更に詳細な分析を加え、その結果を来年度の長崎外国語大学刊行『新長崎学研究センター紀要』に掲載することを目指している。</p>		
			I-4	・佐賀国際フェスタ		<p>イベント名: R5.10.29(土)佐賀国際フェスタ出展(西九短、九州龍、佐賀女子)</p> <p>実施日: 2023年10月29日</p> <p>参加大学: 九州龍谷短期大学、佐賀女子短期大学、西九州大学短期大学部</p>	A	<p>留學生と共に企画、地域住民に対し母国の自然、歴史、文化、料理を紹介。交流ができています。</p>		

令和5年度 事業実績報告及び自己評価

評定値 リスト	S	目標以上の成果を上げることができた
	A	目標を達成できた
	B	一部改善は必要であるが、おおよそ目標を達成した
	C	目標未達であり更なる努力や大幅な計画の見直しが必要

課題分野名	中期計画				令和5(2023)事業計画	令和5(2023)年度実績	自己評価		外部評価	
	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要			評定値	コメント	評定値	コメント
中期計画策定・点検評価委員会	中期計画の策定	J-1	中期計画を取りまとめる	令和4年度事業推進協議会等で協議、策定。第2期計画をスタートさせ、第3期視野に入れながら適宜修正を図る。	5校の退会により12校、3自治体、2経済界、計17参画機関の新体制でWGを再編し、第2期中期計画をスタートすることができた。	A	・令和5年度事業推進協議会、事務責任者会議、相互訪問などにて現状の事業進捗等を確認、事業推進を図った。 ・「中計推進事務局」(西九州大学・長崎国際大学)にて、タイプ3申請、連携事業などの協議を行うことができた。	【総評】 外部評価委員会は、九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム(QSP)事業の2023(令和5)事業年度活動内容について、令和6年7月1日にオンライン会議で審議するとともに、更に補充資料を得て、8月22日から9月5日にかけてメール審議を重ねました。その結果、令和5事業年度の事業は計画に基づいて真摯に取り組まれていたことを確認するとともに、個々のワーキンググループの自己評価の評定は妥当であり、総合評価をAとする事業者の自己評価に異論はありません。	【特に注目される成果】 特に、下記の事項については高いレベルで成果を上げていると評価できるものであり、今後もエネルギーを傾注され、更なる高みに発展されることを期待します。	
	中期計画の進捗管理	J-2	中期計画に記載した各事業について、ワーキンググループと連携して、進捗状況を把握・管理する。	第2期中期計画初年度の進捗、目標管理を行う。	R5.10 私立大学等改革総合支援事業タイプ3申請 R5.12 第1期最終年度令和4年度の係数を確認(学校基本調査等)	A	・中計第1期、及び第2期中計初年度の事業進捗確認を行った。			
	中間報告書の作成	J-3	中間外部評価を受けるための中間点検評価報告書を取りまとめる。	中間報告書作成に備え、初年度実績を取りまとめる。	R5.6 第1期QSP報告書を取りまとめ、外部評価委員会に報告、QSPウェブサイトへアップした。中期計画第2期中期計画初年度、新体制、新WGの実績を取りまとめた。	A	・令和4年度までの第1期最終報告書作成し、第2期中計初年度の実績確認を行った。			
	最終報告書の作成	J-4	最終外部評価を受けるための最終点検評価報告書を取りまとめる。	最終報告書作成に備え、初年度実績を取りまとめる。	同上	A	同上		a. 建学理念の異なる複数の大学が連携して、「地域創生支援リーダー育成入試」を実現しようとする試みは、極めて高いレベルの目標であり、その実現が希求されていました。令和5年度において初めて、入学者5名を得たことはQSPとして卓越した成果であり、今後の着実な展開を期待します。	
	外部評価の実施	J-5	外部評価の企画・準備・対応を行う。	外部評価を受けるため、各WGの自己評価を取りまとめる。	第1期から引き続き第2期も外部評価委員就任を依頼。令和5年7月3日令和5年度外部評価委員会を開催し、令和4年度の活動実績を評価いただいた。	A	・外部評価委員に参考資料として、第1期最終報告書を提出することができた。		b. 健康・福祉推進に係る活動では、健康ウォーキングが定着し、市民の皆さんが大変期待され、まさに地域を巻き込んだ、素晴らしい形になっています。今後の継続的発展を期待します。	
	中期計画の改定	J-6	事業の進捗により中期計画の修正が必要になった場合に、改定作業を行う。	第2期中期計画の事業進捗、参画機関の動きに合わせて、適宜協議のうえ改定する。	改訂事項なし	—	—		c. 製陶工場と生地工場の間でのドローンの活用は、QSPの地域ならではの、産業と結びついた活動であり、ニーズに応じたソリューションを提起しているものとして高く評価しています。この種の活動の更なる充実を期待します。	
	次期計画の検討	J-7	本中期計画の終了後の事業の継続・発展のための次期計画について検討を行う。	各年度の事業実績について、課題を確認しながら次期中期計画策定に備えていく。	第2期中期計画初年度、新体制、新WGの実績を取りまとめた。	A	・第2期中計初年度も、着実に実績を重ねている。		d. 留学生関連事業については、初めて組織を作って1年目ですが、多方面にわたって注目される活動が展開されています。QSPは何を提供できるか、どういう人、どういう活動を求めるかをより明確にされることで活動がより充実してくると理解しています。	
プラットフォーム事業全体				新たにスタートする第2期中期計画の体制定着を図りながら、令和5年度事業を実施する。	第2期中期計画初年度、新体制で臨み、新グループ、新責任校の事業推進態勢が定着した。 <事業予算> ・事業運用資金及び人件費の確保のため、参画機関のうち、私立大学・短期大学より、令和5年度の年会費100万円/校納付。9校計900万円。各専門委員会・WGに各30万円を基準として270万円を活動費として配分。 <外部評価委員会の開催・講評>令和5年7月3日開催、9月25日講評 ・「QSP間で大きな一つの大学・短大として機能するような、たおやかな計画を立てることを期待している。」とのコメントを受領。 <令和4年度 私立大学等改革総合支援事業採択> 令和5年2月 <令和5年度 私立大学等改革総合支援事業申請> 令和5年10月 ・タイプ3「プラットフォーム型」に7回目の申請。調査票得点率92.4%。 ・QSP中長期計画に対する自己評価では、「A(当初の計画を着実に実施してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。)」として申請。 <中計目標達成状況>※実績/目標値 1. 係数目標の達成状況(R4年分) 4項目中3項目(以下①③④)達成 ※令和5年度はまだ係数不明 ①進学率(大学・短大)両県計46.7%/45.4%、②県内の大学への進学者数5,593人/5,800人、③大学生の流出差△3,067人/△3,250人、④県内就職率(私立)55.4%/53.0% 2. WGのR5年度活動目標別取組状況 「教育改革プロジェクト」① QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(0/5科目)、② 共同SD・FD(短大系含む)の実施(8/15回)、③ 共同研究の実施(4/10件)、④ 共同IRIによる共通調査等の実施(2/5件)、⑤ 高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(4/5件)、⑥ 地元就職支援に係る地元企業との連携事業(2/5件)、⑦ リカレント教育の講座等の実施(3/10件) 「SDGs推進プロジェクト」⑧ 共同公開講座の実施(10/年5件)、⑨ 健康増進事業の実施(2/10件)、⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(2/5件)、⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(1/5件)、⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(5/10件)、⑬ 中等教育関連教材の開発(3/4本)、⑭ 中等教育関連支援活動の実施(6/10件) 「国際交流プロジェクト」⑮ 留学生支援事業の実施(4/5件)、⑯ 留学生交流事業の実施(5/5件)	A	左記の実績と以下を総合的に勘案し、自己評価を「A」とする。 ・第2期中期計画初年度で通算7年目となった令和5年度は、コロナ禍が終息に向かうなか、新体制、新WGを中心として、新たな企画にも積極的に取り組み、順調にスタートしている。 ・第1期中期目標、目標係数達成状況については、係数目標4項目のうち3項目を達成し、課題ごとの第2期活動目標(16項目)についても、今年度から着実に実績を積み上げている。	e. リケジョ活動は素晴らしい、QSP事業のひとつの柱に育つ可能性があります。今後の展開を期待します。 【事業内容の自己点検を踏まえて、更なる展開が期待される事項】 下記の課題については、計画に従って、事業推進を遅延させている要因、克服すべき環境を明確にされて、ゆっくりにあっても着実に歩まれることを期待します。 a. 従前からの課題として、地元の自治体や企業・経済界との結びつきがまだ少し弱く、改善はされていますが、引き続きの努力を期待します。今後の事業展開にあたっては、手がかりとして下記事業を精査され、改善を図られることを期待します。 ・人材バンクの登録数は、約80名とのことですが、もっと登録数を増やされ、地域との連携機会をより充実されたい。 ・協働企業説明会について、長崎空港ビルディングの見学は18名の参加を得たということでしたが、具体的な成果に結びついているかどうかを検証され、更なる改善を図られ、この種の事業の更なる展開を期待します。 b. 近年、高校生の地元進学志向が強まっています。この流れを大きくしていくため、地元の高校と連携、まだ手が届いていない所への新たなアプローチに是非力を入れて頂くことを期待します。 c. 地域産業振興に係る活動の中で、小学生向け体験教室などが高く評価されています。こういった西九州地区固有の文化と産業に係る学習、体験活動をより組織的に構成されることを期待します。この観点から、特に、留学生に焦点をあて、QSPではこのような学びができ、ここで学んだら、どのようなキャリア・パスが実現できるかの見える化を図り、東南アジアなどの若者に向けたアピールも期待します。 d. 留学生支援に関しては、留学生だけではなく、ご家族に対する日本語教育支援を、今後もより組織的に展開されることを期待します。 e. 短期大学系のこども育成フォーラムの活動については、過去3年間実施した実績を踏まえ、子ども育成フォーラムの形態を見直し、新たな共同公開講座としてリレー講座を企画され、また別途WGの令和5年度事業として、R5/9/2「発達障害支援フォーラム(西九州大・西九州短大)」、R5/11/11「子どもフェスタ(九州龍谷短大)」、R6/2「子ども研究ネットワーク研究大会(西九州大、佐賀県)」を実施されています。これらの成果を踏まえられ、短期大学としての機能・役割を地域の方々との相互理解の機会をQSPの活動を通して充実され、地域の方々との連携で展開する活動が更に結実していくことを期待します。 f. 新中期計画を1年目、2年目と動かしてみた結果、実現が困難と判断された事業、当初の計画とは違う方向性がベターと判断された事業については、速やかに代替事業の設定や目標の修正を行っていただき、令和10年度での実現を目指されたい。		